

JP-M-TOX for Web 利用マニュアル

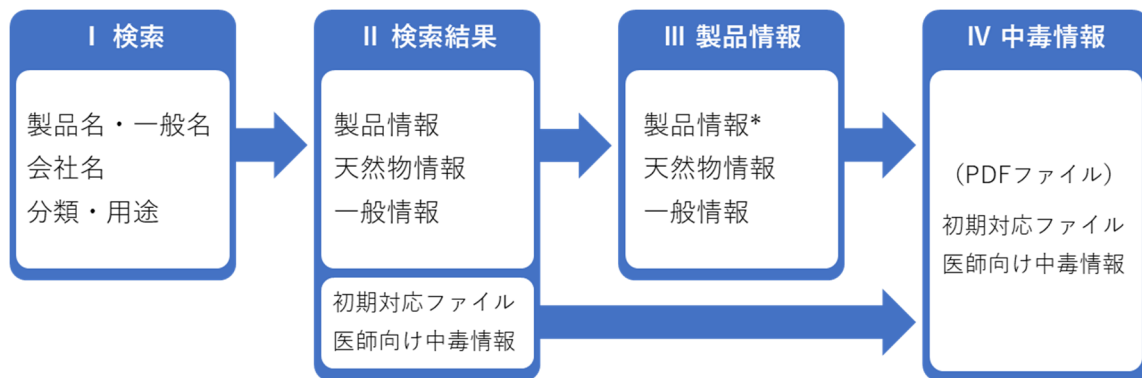
JP-M-TOX for Web について

JP-M-TOX for Web は、公益財団法人日本中毒情報センター（JPIC）が開発した、急性中毒の治療にあたる医療従事者向けのデータベースです。

パソコン、タブレット、スマートフォンで中毒原因物質に対応する中毒情報（初期対応ファイル、医師向け中毒情報）を検索できます。掲載情報は適宜更新されます。

ご利用前に「JP-M-TOX for Web 利用規約」を必ずお読みください。本データベースの利用をもって利用規約の内容を承諾いただいたものとみなします。

検索の流れ



* 医薬品および農薬については有効成分名・組成が表示されます。
有効成分の「医師向け中毒情報」がある場合は中毒情報へリンクされます。

JP-M-TOX for Web へのログイン

1. JP-M-TOX for Web のサイトへアクセスする

<https://www.j-poison-ic.jp/medical-2/jp-m-tox-for-web/>

2. ログイン

ログイン画面

会員ID

パスワード



会員 ID : 賛助会の会員 ID（賛助会入会・更新時に郵送にて連絡済み）

パスワード : 賛助会のパスワード（賛助会入会・更新時に郵送にて連絡済み）

* 会員 ID、パスワードが分からない場合は head-jpic@j-poison-ic.or.jp までご連絡ください。

3. 同時ログインは **3 ユーザー** までです。

操作しない状態が 30 分連続とログアウトされますので、再度ログインしてください。

注意事項

- ・ 本データベースは完全性を保証するものではありません。
- ・ 実際に事故が発生している場合で、本データベースで情報が探せない場合は中毒 110 番（賛助会員専用電話）までお問い合わせ下さい。
- ・ 急性中毒症例を経験された場合は、[症例情報](#)のご登録をお願い致します。

I. 検索

中毒情報データベース
JP-M-TOX for Web

症例登録にご協力をお願い致します

⑦ 症例登録はこちら

⑧ ログアウト

製品名・一般名 ⓘ	①
会社名 ⓘ	②
分類 ⓘ	③ 選択してください
用途 ⓘ	④ 選択してください
分類・用途フリーワード ⓘ	⑤

⑥ 検索

複数の項目を入力して検索した場合は AND 検索が可能です。

検索をやり直す場合は、必ず検索条件をクリアしてから実施してください。

	項目名	説明
①	製品名・一般名	<p>検索したい製品名・一般名または製品名・一般名のヨミを部分一致で検索します。ヨミで検索する場合は長音符（-）を削除して入力してください。</p> <p>例) 「中毒スーパースプレー」を検索する場合 製品名で検索：「中毒スーパースプレー」、「中毒スーパー」など ヨミで検索：「チュウドクスパスプレ」、「チュウドクスパ」など</p> <p>自然毒はカタカナで検索してください。</p> <p>例) 「水仙」ではなく、「スイセン」で検索 「夾竹桃」ではなく、「キョウチクトウ」で検索</p> <p>初期対応ファイル・医師向け中毒情報のタイトル、インデックスも検索対象です。</p> <p>例) 「メタノール」で検索すると、メタノールをインデックスとして含む以下の中毒情報が参照できます。</p> <p>初期対応ファイル「アルコール類」 医師向け中毒情報「メチルアルコール」 医師向け中毒情報「ブチルアルコール」</p> <p>検索のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 農薬の場合は、農薬登録番号での検索が有効です。製品ラベルに記載の「農林水産省登録〇〇〇〇〇号」の番号で検索してみてください。 ● 何も検索されない場合、ヨミ（長音符なし）で検索してみてください。検索語句を短くして検索してみてください。 ● 検索結果が多い場合、会社名と組み合わせて検索してみてください。
②	会社名	<p>検索したい会社名または会社名のヨミを部分一致で検索します。ヨミで検索する場合は長音符（-）を削除して入力してください。</p> <p>例) 「日本中毒株式会社」を検索する場合 会社名で検索：「日本中毒」 ヨミで検索：「ニホンチュウドク」</p>
③	分類	「製品情報・天然物情報・一般情報」に付与している分類・用途キーワードを使用して検索できます。
④	用途	初期対応ファイル・医師向け中毒情報は分類・用途キーワードでは検索できません。
⑤	分類・用途フリーワード	<p>分類をリストから選択すると、用途が選択可能になります。分類のみでも検索可能ですが、用途のみの選択はできません。</p> <p>例) 分類「玩具類」→用途「スライム」 分類「洗剤・クリーナー類/洗剤」→用途「衣類用洗剤」</p> <p>医薬品類は用途が選択できません。分類を選択後、分類・用途フリーワードに薬効に関連するキーワードを入力して検索してください。</p> <p>例) 分類「医薬品類/医療用薬」→分類・用途フリーワード「催眠鎮静」 分類「医薬品類/医療用薬」→分類・用途フリーワード「糖尿」 分類「医薬品類/一般用薬」→分類・用途フリーワード「総合感冒」 分類「医薬品類/一般用薬」→分類・用途フリーワード「鎮咳」</p>
⑥	検索ボタン	上記 1～5 のいずれかを入力した後、クリックすると検索ができます。
⑦	症例登録はこちら	日本中毒情報センターweb サイト「急性中毒症例登録の方法」が開きます。
⑧	ログアウト	ログアウトボタン

II. 検索結果

検索結果

① 名称	② 情報表示	③ 情報識別	④ 標準名称	⑤ 会社名	⑥ 分類	⑦ 用途
アムウェイ 粉末塩素系漂白剤 [塩素ガス発生]	View	製品情報	粉末塩素系漂白剤 (E8376J) [塩素ガス発生]	日本アムウェイ株式会社	洗剤・クリーナー類/漂白剤	漂白剤
アムウェイ 粉末塩素系漂白剤	View	製品情報	粉末塩素系漂白剤 (E8376J)	日本アムウェイ株式会社	洗剤・クリーナー類/漂白剤	漂白剤
塩素系漂白剤	PDFView	初期対応ファイル	塩素系漂白剤			
家庭用塩素系漂白剤	PDFView	医師向け中毒情報	家庭用塩素系漂白剤類			

ページ 1 / 3, 全 289 件中 100 件表示

検索条件に合致した情報が、「名称」順に表示されます。項目名をクリックすると、その項目順に並べ替えが可能です

	項目名	説明
①	名称	情報の名称/別名 (1つの情報に対して複数) 「製品名・一般名」検索の検索対象項目
②	情報表示	クリックすると該当の情報が開きます。 「View」→ブラウザで開く (製品情報、天然物情報、一般情報) 「PDFView」→PDFが開く (初期対応ファイル、医師向け中毒情報)
③	情報識別	情報の種類を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> ・製品情報 : 市販されている製品の情報 →5 ページ参照 ・天然物情報 : 自然毒の情報 →5 ページ参照 ・一般情報 : 上記以外の一般的な化合物の情報 →5 ページ参照 ・初期対応ファイル : 7 ページ参照 ・医師向け中毒情報 : 11 ページ参照 <div style="background-color: red; color: white; padding: 2px;">検索のポイント</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報識別の項目名をクリックすると、初期対応ファイル、医師向け中毒情報が上に表示されます。
④	標準名称	情報の標準名称または中毒情報のタイトル (1つの情報に対して1つ)
⑤	会社名	製品情報の会社名 (1つの情報に対して複数) 「会社名」検索の検索対象項目
⑥	分類	「製品情報」「天然物情報」「一般情報」に付与している分類キーワード 「分類」検索の検索対象項目
⑦	用途	「製品情報」「天然物情報」「一般情報」に付与している用途キーワード 「用途」検索の検索対象項目
⑧	ページセクター	表示される検索結果は1ページあたり100件です。 100件以上の場合はここからページを選択してください。
⑨	検索条件クリア	クリックすると検索結果が削除され、初期画面に戻ります。

Ⅲ. 製品情報・天然物情報・一般情報

[⑪ TOPへ戻る](#)
[⑫ 前のページに戻る](#)

① ○○○○粉剤

② 管理CD 26708

③ 別名 17933 (農薬登録番号)

④ 会社 ○○○○株式会社

⑤ 分類・用途 殺虫剤類 殺虫殺菌剤

⑥ 初期対応ファイル 有機リン系殺虫剤・カーバメート系殺虫剤 [PDFView](#)

⑦ 医師向け中毒情報

成分と成分OF	⑧ 成分名	⑨ 組成・単位	⑩ 成分OF
	MEP	3 %	有機リン剤 PDFView
	フサライド	2.5 %	有機塩素系殺菌剤 PDFView

以上は一般に公表されているデータです。
上記以外に問題となる成分を含む可能性がありますので、緊急の際には中毒110番へ必ずご確認ください。

検索結果 (4 ページ) で「view」をクリックすると、該当する製品情報・天然物情報・一般情報がブラウザで開きます。

○ : 表示、△ : 情報がある場合のみ表示、× : 表示されない

	項目名	説明	製品情報		天然物情報	一般情報
			医薬品 農薬	その他		
①	標準名称	情報の名称	○	○	○	○
②	管理 CD	JPIC 独自の管理番号	○	○	○	○
③	別名	情報の別名 (農薬登録番号、品番、キャッチフレーズなど)	△	△	△	△
④	会社	製品の取り扱い会社	○	○	×	×
⑤	分類・用途	JPIC 独自の分類・用途キーワード	○	○	○	○
⑥	初期対応ファイル	7 ページ参照、「PDFview」から PDF ヘルプ	△	△	△	△
⑦	医師向け中毒情報	11 ページ参照、「PDFview」から PDF ヘルプ	△	△	△	△
⑧	成分名	有効成分名	○	×	×	×
⑨	組成・単位	有効成分の組成	○	×	×	×
⑩	成分 OF	成分別の医師向け中毒情報 11 ページ参照、「PDFview」から PDF ヘルプ	△	×	×	×
⑪	TOP へ戻る	検索初期画面へ戻る	-			
⑫	前のページに戻る	前のページに戻る	-			

検索のポイント

表示される初期対応ファイル⑥は 1 ファイルのみです。農薬で複数の有効成分を含有する場合も 1 ファイルしか表示されません。初期対応ファイルがない成分については、成分名で再度検索すると、初期対応ファイルを参照できる場合があります。

上記画像での例) MEP : 初期対応ファイル「有機リン系殺虫剤・カーバメート系殺虫剤」が表示されている。

フサライド : 製品名・一般名「フサライド」で検索すると初期対応ファイル「殺菌剤 (農薬)」を参照できる。

IV. 中毒情報

① 有機リン系殺虫剤・カーバメート系殺虫剤

② Pfid PF-A00300

④ TOPへ戻る
⑤ 前のページに戻る

1 / 15 幅に合わせる

概要

初期対応のための確認事項
初期対応のポイント
解説

1. 物質・製品について
2. 事故の発生状況
3. 毒性
4. 中毒の発現機序
5. 体内動態
6. 症状
7. 対応
8. 治療上の注意点
9. 現場における二次災害の防止対策

<図表>
図1、図2
図3
図4
図5
表1
表2

公益財団法人 日本中毒情報センター 初期対応ファイル（詳細版）
【農薬編：有機リン系殺虫剤・カーバメート系殺虫剤】Ver.0110

有機リン系殺虫剤・カーバメート系殺虫剤

概要

物質・製品

有機リン系殺虫剤はリン酸エステル結合をもつ化合物、カーバメート系殺虫剤はカルバミン酸のエステルをもつ化合物である。いずれもコリン作動性シナプスに存在するアセチルコリンエステラーゼ（AChE）の阻害作用をもち、害虫が薬剤に直接接触したり、薬剤で処理された植物を摂食したりすることにより殺虫作用を発揮する。製剤として、有機溶剤や界面活性剤を含む液状製剤（乳剤、油剤）、水に溶かして使用する水和剤、そのまま使用する粒剤や粉剤など、さまざまな剤型がある。同じ剤型であっても含有量が異なる場合や、複数の成分を含有する混合剤もある。

問題となる成分と症状

有機リン系殺虫剤、カーバメート系殺虫剤とも、化学構造により物性、作用特性、毒性が大きく異なるが、いずれも体内でAChEと結合して活性を低下させることにより、アセチルコリンの分解を阻害する。コリン作動性神経終末におけるアセチルコリンの蓄積に伴って、ムスカリン様症状（徐脈、流涎、流涙、発汗、嘔吐、下痢、排尿、縮瞳等）、ニコチン様症状（頻脈、高血圧、散瞳、筋痙攣等）、中枢神経症状（意識レベルの低下、不穏、せん妄、昏睡、痙攣等）などのコリン作動性症候が出現し、死亡することもある。一般に、カーバメート系殺虫剤は、有機リン系殺虫剤に比べて症状の出現が早く、回復も早い。有機溶剤や界面活性剤などを含む製剤では、その影響も考慮する必要がある。

JPIC受信状況

農薬の有機リン系殺虫剤、カーバメート系殺虫剤として、年間160件程度の問い合わせがあり、使用に際する留意点は

検索結果（4 ページ）または製品情報（5 ページ）で「PDFview」をクリックすると、該当する中毒情報のPDFが開きます。

	項目名	説明
①	タイトル	中毒情報のタイトル
②	Pfid	JPIC 独自の管理番号
③	中毒情報本文	・初期対応ファイル : 7 ページ参照 ・医師向け中毒情報 : 11 ページ参照
④	TOP へ戻る	検索初期画面へ戻る
⑤	前のページに戻る	前のページに戻る

* 印刷は可能ですが、PDF ファイルのダウンロードはできません。
(ただし、2024年3月31日までの無料お試し期間中は印刷もできません。)

IV-1. 初期対応ファイル

製品群の用途別の情報で、日本中毒情報センター「中毒 110 番」の 30 年間の経験を基に作成しています。初期対応のための確認事項、初期対応のポイント、製品、事故の発生状況、毒性、症状、処置などを簡潔にまとめた情報です。

書籍『発生状況からみた急性中毒初期対応のポイント 家庭用品編、農薬・工業用品編/化学剤編（へるす出版）』と対応していますが、本データベース収載の初期対応ファイルは製品群を細かく分割するなど、随時更新を行っています。

1. 家庭用品

概要

各項目の急性中毒に関する概要を、「製品」、「問題となる成分と症状」、「日本中毒情報センターの受信状況（JPIC 受信状況）」に分けて記載しました。

【初期対応のための確認事項】

中毒事故について相談を受けた際に注意して確認すべき項目を、中毒の原因を特定するための「1. 製品」、起こりうる健康被害を予想するための「2. 曝露状況・経路」、緊急度を判断するための「3. 患者の状態・症状」に分けて記載しました。

【初期対応のポイント】

確認事項を考慮したうえで、初期対応にあたって判断すべき内容を経路別にまとめました。最初に応急手当を記載し、次に受診の必要性を【直ちに受診】【念のため受診】【経過観察】の 3 段階に分けて記載しました。

解説

「概要」「初期対応のための確認事項」「初期対応のポイント」の記載の基となった情報を、項目ごとにまとめました。

【1. 製品について】

製品群の用途、形態、使用法、成分、化学的・物理的特性、法的規制等に関して、中毒の観点からまとめました。

【2. 事故の発生状況】

日本中毒情報センターの受信状況や医療機関受診例を盛り込み、必要に応じて簡単な事例、文献報告も示しました。

【3. 毒性】

毒性が低いと考えられる製品群の場合はその旨を記載しました。問題となる成分を含有する製品群の場合は、その成分の毒性に関する情報を記載しました。なお、急性中毒における毒性値（中毒量・致死量）が確立されていない成分や、腐食性物質のように中毒量概念自体が健康被害の実際にそぐわない場合もあるため、具体的な数値を提示したものについても、あくまでもひとつの目安と考えます。

【4. 中毒学的薬理作用】

中毒症状を起こす原因となる作用について、製品群全体として考えられる作用を基本とし、それが困難な場合は、問題となる成分の作用を記載しました。

【5. 症状】

出現する可能性のある症状を経路別に、軽症の場合と重篤な場合をできる限り分けて記載しました。

【6. 処置】

家庭での応急手当と医療機関での処置に分け、「初期対応のポイント」よりも詳しく、理由も記載しました。医療機

関での処置については、プレホスピタルの段階で考慮すべき情報として記載しました。

[7. 治療上の注意点]

主に医療機関の先生方を想定して記載しましたが、参考程度とし、必要最小限にとどめました。

[8. 体内動態]

製品群に合った情報とし、それが困難な場合は問題となる成分の吸収、代謝、排泄に関する情報を記載しました。

(2) 農薬、工業用品

概要

各項目の急性中毒に関する概要を、「物質・製品」、「問題となる成分と症状」、「日本中毒情報センターの受信状況（JPIC 受信状況）」に分けて記載しました。

[初期対応のための確認事項]

中毒事故について相談を受けた際に注意して確認すべき項目を、中毒の原因を特定するための「1.物質・製品」、起こりうる健康被害を予想するための「2.曝露状況・経路」、緊急度を判断するための「3.患者の状態・症状」に分けて記載しました。

[初期対応のポイント]

確認事項を考慮したうえで、最初に初期対応にあたって患者および対応者自身の安全を確保するために最低限おさえておくべき情報をまとめました。【受診と医療機関での対応】には受診の目安と医療機関における対応の要点を、【経過観察】には家庭での経過観察が可能な場合の判断の目安を記載しました。

解説

「概要」「初期対応のための確認事項」「初期対応のポイント」の記載の基となった情報を、項目ごとにまとめました。

[1. 物質・製品について]

物質および製品群の用途、形態、使用法、成分、化学的・物理的特性、法的規制等に関して、中毒の観点からまとめました。農薬、工業用品は化学的・物理的性質が曝露経路や毒性に大きく影響することがあるので、情報があれば極力記載するよう努めました。

[2. 事故の発生状況]

日本中毒情報センターの受信状況や医療機関受診例を盛り込み、必要に応じて簡単な事例、文献報告も示しました。

[3. 毒性]

ヒトの毒性に関する情報がある場合はできるだけ記載しました。ただし、急性中毒における毒性値（中毒量・致死量）が確立されていない成分や、腐食性物質のように中毒量の概念自体が健康被害の実際にそぐわない場合もあるため、具体的な数値を提示したものについても、あくまでもひとつの目安と考えます。また毒性に関する参考情報として【参考：規制値、許容濃度等】に、日本産業衛生学会が勧告する許容濃度、ACGIH（American Conference of Governmental Industrial Hygienists：米国産業衛生専門家会議）が勧告する許容限界値、National Advisory Committee for the Development of Acute Exposure Guideline Levels for Hazardous Substances(全米 AEGL 開発諮問委員会)が策定する AEGL（Acute Exposure Guideline Level：急性曝露ガイドライン濃度）などを記載しました。

[4. 中毒の発現機序]

3. 毒性で取り上げた物質（もしくは製品）について、中毒の発現機序を記載しました。

[5. 体内動態]

3. 毒性で取り上げた物質（もしくは製品）について、吸収、代謝、排泄に関する情報を記載しました。ヒトの情報を優先し、動物実験のデータについてはその旨を記載しました。

[6. 症状]

出現する可能性のある症状をできるだけ経路別に、また一般にみられる症状と重篤な場合にみられる症状を分けて記載しました。

[7. 対応]

はじめに初期対応における要点を、対応者の安全確保も含めて簡潔に記載しました。「プレホスピタルケア（病院前救護）」には現場からの避難と汚染の除去について記載し、「医療機関での処置」には基本的治療の要点、禁忌事項、プレホスピタルの段階で考慮すべき情報として解毒剤の有無と解毒剤名、確認が必要な検査項目を記載しました。

[8. 治療上の注意点]

主に医療機関の先生方を想定し、必要最小限の情報を記載しました。また入院・経過観察の基準、解毒剤の使用方法も記載しました。

[9. 現場における二次災害の防止対策]

1. 注意事項：現場（曝露場所、発災現場）における個人防護に関する情報と、その他に特記すべき注意点があれば記載しました。
2. 初期隔離・保護活動の距離：物質ごとに ERG 2016（2016 Emergency Response Guidebook：緊急時対応指針）から初期隔離と保護活動の距離を抜粋して掲載しました。
3. 漏洩物処理：国際化学物質安全性カード（ICSCs）が公開されている物質については、漏洩物処理の参考として、ICSC の番号を掲載しました。

(3) 化学剤

1) 総論（化学兵器危機管理データベース）

化学テロ対応の基本的な考え方を知っていただくための総論です。災害拠点病院の先生方をはじめとする医療者はもちろん、化学テロ対応にかかわるすべての職種の方に、事前に通読することをお勧めします。

2) 各論

以下の項目について記載しました。

なお「神経剤対応マニュアル（サリンを中心に）」は各神経剤（サリン、ソマン、タブン、VX）について、「びらん剤対応マニュアル（マスタード類、ルイサイト類、ハロゲン化オキシム）」は各びらん剤（マスタード類、ルイサイト類、ハロゲン化オキシム）について、同じ類型に分類される4剤を比較することでその違いをより具体的にイメージできることを目指しており、他のファイルと項目立てが異なります。

[概要]

物質に関する情報、作用、症状、治療、二次曝露の防護をまとめました。

[背景]

化学剤として使用された歴史、化学兵器禁止条約等での取り扱いなどをまとめました。

[1. 物性]

化学剤の性状、構造式、化学的・物理的性質、環境汚染の持続時間などをまとめました。

[2. 毒性、中毒作用機序、体内動態]

毒性はヒトの情報がある場合はできるだけ記載しました。また参考情報として【参考：規制値、許容濃度等】に、毒性に関する日本産業衛生学会が勧告する許容濃度、ACGIH（American Conference of Governmental Industrial Hygienists：米国産業衛生専門家会議）が勧告する許容限界値、National Advisory Committee for the Development of Acute Exposure Guideline Levels for Hazardous Substances(全米 AEGL 開発諮問委員会)が策定する AEGL（Acute Exposure Guideline Level：急性曝露ガイドライン濃度）などを記載しました。その他、農薬、工業用品に準じて記載しました。

[3. 中毒症状]

「概要」には、主な症状をできるかぎり経路別に、また一般にみられる症状と重篤な場合にみられる症状に分け、時間経過も含めて記載しました。「部位別症状」には、出現する可能性のある症状を部位別に列挙しました。

[4. 治療]

「概要」と「詳細」に分け、概要には汚染除去の方法、解毒剤の有無、経過観察の注意点などを簡潔に記載しました。詳細には経路別に①基本的処置、②対症療法、③特異的処置を記載しました。

[5. 経過観察]

ピチョック、フェンタニルのみに記載しました。

[6. 汚染管理]

ピチョック、リシンのみに記載しました。

IV-2. 医師向け中毒情報

中毒原因物質の毒性、体内動態、中毒症状、治療などに関する詳細な情報です。（医薬品、農薬、その他の化学物質、自然毒を含みます。） 解毒剤がある場合は、解毒剤ファイルが末尾に付加されています。

以下の項目について記載しました。ただし、未作成の項目については、“未ファイル”と表示しています。

[0. 概要]

[毒性] [中毒学的薬理作用] [症状] [治療法] を中心に、急性中毒の概要を記載しました。（未作成のファイルあり）

[1. 名称]

物質の一般名、化学名、別名、製品名等を記載しました。

動植物の場合、学名、地方名の他、生息地域等も記載しました。

[2. 分類コード]

日本中毒情報センター独自の分類コードを記載しました。

[3. 成分・組成]

成分名、含有率(量)等を記載しました。

（動植物の場合、有毒成分・有毒部位、一般的含有量等）

[4. 製造会社および連絡先]

会社名、および連絡先等を記載しました。

[5. 性状・外観]

物質の性状、色、臭い、液性、比重、溶解性等化学的・物理的性質について記載しました。

動植物の場合、誤認しやすいものについても記載しました。

[6. 用途]

用途等を記載しました。

[7. 法的規制事項]

法的な規制事項がある場合、記載しました。（化粧品、医薬品、農薬、毒劇物等）

[8. 毒性]

- 急性毒性を中心に、生命予後、症状発現、治療の必要性の観点から摂取経路別に致死量、半数致死量（LD₅₀）、中毒発現量等の毒性値を記載しました。

- ヒトのデータを最優先とし、動物のデータも記載しました。

- 中毒発現血中濃度についてもデータがある場合は記載しました。

[9. 中毒学的薬理作用]

毒性の発現機序等について記載しました。

[10. 体内動態]

吸収、分布(分布容量、蛋白結合率、臓器親和性等)、代謝、排泄(排泄経路、半減期、蓄積性等)について記載しました。

[11. 中毒症状]

- 急性中毒時の症状を摂取経路別に、基本的に(1)循環器系 (2)呼吸器系 (3)神経系 (4)消化器系 (5)肝症状 (6)泌尿器系 (7)その他の項目に分類して記載しました。

- ・予後、後遺症、相互作用等についても記載しました。

[12. 治療法]

- ・急性中毒時の治療法を経路別に、基本的に(1)基本的処置 (2)生命維持療法および対症療法 (3)特異的治療法(解毒剤)の項に分類し、適応基準、中止の基準、施行上の注意点、禁忌事項等について記載しました。
- ・必要な検査項目もあれば記載しました。

[13. 中毒症例]

関連する中毒症例を記載しました。

[14. 分析法]

治療上必要あるいは有益と考えられ、簡便に行える分析法があれば記載しました。

[15. その他]

上記 1.~14.に含まれない事項（大規模災害時の初期隔離等）について記載しました。（一部、参考文献を含むファイルがあります）

[16. 参考資料]

資料の作成に使用した参考文献のリストを掲載しました。

[17. 作成日]

O F の作成日、バージョン、識別番号を記載しました。

解毒剤ファイル

PDF ファイルのページに表示されているO Fに関連する解毒剤の情報がある場合、その解毒剤ファイルの名称をしおりパネルの「本文の目次」の末尾に表示しています。解毒剤の名称表示部をクリックすると、ページが該当解毒剤ファイルの本文にジャンプします。解毒剤の名称の先頭にある田をクリックすると該当解毒剤ファイルの本文の「項目」を一覧表示します。

[0. 概要]

臨床適応の基準、品名(国内流通の商品名、または院内製剤化+剤形の表示)、用法・用量、使用上の注意とその理由、解毒機序等について記載しました。

[1. 名称]

一般名、化学名、別名、C A S登録番号、代表的商品名(メーカー名)等を記載しました。

[2. 適応]

適応する中毒起因物質名、使用開始の基準、効果が疑わしい症例について記載しました。

[3. 薬効・薬理作用]

解毒作用機序およびその他の薬理作用について記載しました。

[4. 入手法・調製法]

製造会社および連絡先、調製法(非市販品の場合)について記載しました。

[5. 使用法]

用法・用量、作用発現時間、持続時間、効果判定基準、使用中止基準について記載しました。

[6. 使用上の注意]

一般的注意、禁忌および慎重投与とその理由、副作用、高齢者・妊婦・授乳婦・小児への使用に関する注意、相互作用、過量投与時・長期投与時の注意事項等について記載しました。

[7. 毒性]

急性毒性、亜急性毒性、慢性毒性、特殊毒性(変異原性、催奇形性等)について記載しました。

[8. 体内動態]

前臨床試験、第一相臨床試験、臨床試験による血中濃度推移、吸収、分布、代謝、半減期、蓄積性データを記載しました。

[9. 物理化学的性質]

原薬および製剤に関する性状・外観、化学式、安定性等について記載しました。

[10. 取扱い上の注意、包装]

[11. 分析法]

血中濃度測定法、確認試験法、定量法について記載しました。

[12. 評価]

有用性の評価、投与方法に関する評価等について記載しました。

[13. 参考文献]

[14. 作成日]

解毒剤ファイルの作成日、バージョン、識別番号を記載しました。